

| |
|-------|
| 代 表 者 |
| |

研 修 報 告 書

平成 30 年 12 月 5 日

各 会 派 代 表 者 殿

呉市議会議員

谷 本 誠 一

次のとおり研修に参加したので報告します。

1. 研修期日

平成 30 年 12 月 4 日 (火)

2. 研修項目

ピーター・ハットン氏講演会

「豪州公立校の元校長が教育の未来について語ります」

3. 参加議員

谷本誠一議員

研修報告書

平成30年12月5日

呉市議会議長殿

呉市議会議員 谷本誠一

次のとおり研修に参加したので報告します。

■研修項目

ピーター・ハットン氏講演会
「豪州公立校の元校長が教育の未来について語ります」

■研修団体及び講師名

DoCo a BoCo (偏りのある子どもの得意を伸ばす親と教師の会)
ピーター・ハットン (元オーストラリア・ビクトリア州立中高一貫校校長)

■研修日

平成30年12月4日(火) 午後7時～午後8時23分

■研修目的

個性や能力を活かした教育、不登校の多い発達障害児の得意分野を伸ばす教育について学ぶ。

■研修内容

オーストラリアの公教育現場で教育改革を断行し、成功されたピーター・ハットン元校長を迎えての講演会が呉市内であり、聴講しました。

彼が校長を務めたビクトリア州立中高一貫教育校「templar・ストウ・カレッジ(TC)」では、当初生徒が286名だったのが、改革によりたった8年間で1,200名に膨れ上がったのですから、驚きです。そのことが評価され、フィンランドのハンドレッドプロジェクトで、「世界一革新的な中高一貫校」を認定されました。

オーストラリアでは、教育とは工場で働くために始まったものと理解されています。チャールズ・レッドピーターによると、現代の教育はB級ロボットを製造する如く地に墜ちており、それを教育者として見て見ぬふりをするのか、変革するのかの選択肢が問われているというのです。ハットン氏は後者を選択し、実行に移したのです。

また、近年ユネスコでは、「ハッピー・スクール」を提唱し、学ぶ人を中心に据えた全体感を持った学校を理想としました。学生は思いのほか高い能力を持っており、決断力もあります。それを活かし切れれば、ストレス、不登校、自信喪失といったこととは無縁になる訳です。

現代教育は、結果を求めるあまり、プロセスがおろそかになっていると考えたハットン氏は、TCで教育改革を実践したのです。

まずTCでは、生徒も先生も一人の人間として平等です。先生は生徒に対する期待値を上げ、互いに下の名前で呼び合い、生徒と先生の規範は同じにしました。そして制服を着ることを強制はしません。

また授業開始を告げるチャイムはなく、生徒自身の携帯電話のアラームで時間を管理します。学年はなく、必修科目もありません。学校のライフスタイル時間も、生徒自身が自身の事情に合わせ、自由に設定することができます。生徒も先生も怒鳴ってはけません。居残り授業も禁止です。10年生までは宿題を出しません。家庭において宿題で拘束されることが、却って教育に逆効果であるとの研究結果が出ているというのです。

さて、取り組んだ具体例として、生徒の中からボランティアを募り、「学校教育大使」に任命しました。健康や保険、介護の分野に興味を持つ生徒に、応急措置、メンタルヘルス、性教育、薬物教育の4分野の研修を実施しました。これにより、生徒が生徒を助けたり、生徒が自身の相談相手、即ちメンターを生徒から選ぶこともできます。

そして極めつけは、生徒が先生を選ぶことができることです。選択科目を変える方法で、途中で先生を変えることも可能なのです。

生徒の要望を受け、選択科目を徐々に増やして行った結果、現在170科目まで膨れ上がりました。この中から、生徒自身の意志で、勉強したい科目を自由に選択できるのです。ですから、学校に行くのが嫌な生徒は皆無な訳です。しかも、自身が選択したい科目がない場合は、生徒が科目新設を提案もできるといいます。教育とは生徒の個性に合わせ、多様性を確保するということです。

そのため、生徒全員がスタッフや親のサポートを受けつつも自身がデザインし、個別学習計画を策定します。

加えて、授業も生徒が自主運営するようにしました。例えばある授業で学校から予算が年間380万円組まれたとします。それを使って生徒が授業プログラムを作成し、そのお金も管理させます。例えば、動物と働くプログラムや、海洋学、ロボテックス、ドローン製作といった具合です。シフト表も生徒が作ります。動物に餌をやるために、週末の休日も自主的に学校に来る場合もあるのです。

特に専門分野がたけて来た生徒は、別の生徒に教えたり、先生に教える逆教師になることもあります。学校に職人が来る場合があると、授業中であっても、校庭に出てその人に質問したり、技術を盗むことも許されています。

更に驚くべきことは、生徒ビジネスができたことです。現在80種もの仕事が校内であり、その際は、学校にある設備はすべて自由に使っていいことになってます。例えば、レーザーカット、移動式コーヒー販売などがあります。コーヒーなどは、授業中に生徒の携帯電話から注文があり、教室に持って行くこともあります。そのフランチャイズ権を生徒から買うこともできます。そして手が足りなければ、生徒が生徒を雇用することもできるのです。

ビジネスを起ち上げるには、一人当たり20万円の出資金が出る制度がありますが、毎年10名の生徒に対し支出枠があります。学校が自由に使っていい一般会計から200万円を貸し出し、ビジネスを始めてもらい、卒業時に返してまた下級生が使える原資にするそうです。

高度専門プログラムも登場し、通常は授業時間の2/3以内の範囲で好きな科目に専念していましたが、全時間を自身の得意な分野に投じることも可能にしました。

生徒が学校運営を手伝うことも可能で、学校側としても、運営に関し100名以上の生徒を雇用しています。学校のスタンスとしては、「生徒ができる仕事を外部の大人に発注するな」を合い言葉にしています。

そして、全生徒が何らかの委員会に所属したり、面接官の一部を生徒が担い、先生を審査することもあるそうです。

結局、生徒の自主性、主体性に任せ、何でもありといった感じです。これが生徒自身の意欲を引き出し、学校生活を楽しくし、生徒の個性や能力を十二分に引き出し、社会に即役立つ生の実践教育をしているのだと痛感しました。

学校の方針は、「Yesが基本」ということです。但し、時間のかかり過ぎること、お金のかかること、人に迷惑をかけること以外が前提条件です。

最後に、FSA（フューチャー・スクールズ・アライアンス）という組織を起ち上げ、教育改革における8つの基本を打ち出しました。即ち、①柔軟性②地域に深く溶け込む③全員の成功④質の高い大人⑤一緒に作り上げる学び⑥生徒のエンパワーメント⑦自己の形成⑧コアスキル（よみかきそろばん）の形成一です。これらの紹介を以て、教育の未来像を提唱されたと言えます。

結局ハットン氏自身も学習障害を乗り越えて来られた自分史があり、「ルールに従うことが嫌い」ということで、オチが入りました。

■質疑応答

①子どもの得意な分野をみつける方法は？

【答弁】

小さい頃から熱中する環境を作ってあげれば、自ずと引き出すことができる。子どもは皆、勉強したいと思っているが、それが成就できない環境を大人が作ってしまっている。

学校での知識の詰め込みは、授業の半分以下に抑制することである。

②常識を打ち破る改革に対し、周囲の先生から反発は受けなかったのか？

【答弁】

確かに反発はあった。ただ、どの教育カリキュラムも完全なものはないとの認識は共有できている。先生のプロ根性に訴え、全生徒漏れなく落ちこぼれないために説得し続けた。その中から理解ある先生を見つけ、共同体制を徐々に気付き上げていった。

③日本では学習指導要領で教育現場が縛られているが、貴国ではどうなっているか？

【答弁】

オーストラリアにも教育指針はあるが、日本よりは緩く、公立でも学校ごとに採用権がある。その中でも、法律の隙間を見つけることに苦心した。つまり法を犯すことなく改革はできる。文化の違いはあるかも知れないが、ルールは現状のモデルを見て作

られているので、必ず思ってもいない抜け道がある。
これまでも政治的リーダーや政治的意志決定者と対立したことも多々あったが、生徒のために前面に掲げて押し通して来た。誰でも子供達に対してよい物を与えたいという共通目的があるので、それができたと思う。

■ 呉市での展開の可能性

- ①我が国の学習指導要領で教育委員会はがんじがらめになっており、保護者も偏差値教育を信奉している現状では、現状ではハットン式教育を実施することは不可能に近い。
- ②但し、発達障害児に不登校が多く、いじめが絶えない現状を見るにつけ、それをなくしたハットン氏の教育方法は大いに参考にすべきである。
- ③児童生徒の個性をより引き出し、能力を伸ばすには、画一的な教育カリキュラムでは限界があり、日本人特有の付和雷同を助長しているなので、児童生徒の評価基準を改める必要がある。
- ④現場で教える校長や教諭の意識改革が一番だが、ハットン式教育の本質を少しでも教育現場で活かす努力はできると思う。